

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除所長

平成15年度病害虫発生予察注意報第1号について
平成15年度病害虫発生予察注意報1号を発表したので送付します。

平成15年度病害虫発生予察注意報第1号

平成15年8月11日
宮崎県

病害虫名 トマト黄化葉巻病

病原ウイルス名 Tomato yellow leaf curl virus (TYLCV)

作物名 トマト・ミニトマト

1. 予想発生地域 県下全域
2. 予想発生程度 多
3. 注意報発令の根拠

- 1) 本病は平成13年11月に初発生を確認後、年12月には2市5町、7戸の農家が栽培する冬春トマトで発生が確認された。平成15年6月の冬春トマト栽培終了時の調査では、1市4町、22戸で発生が確認され、宮崎市を中心に発生地域、農家数が増加している。(表1)
- 2) 7月24日に宮崎市・清武町の29カ所における家庭菜園トマトでの発病調査では19カ所(65.5%)で発病が確認され、全体の発病株率も49.2%と高く、この地域全体にTYLCVを保毒したシルバーリーフコナジラミが蔓延しているものと推察された。(表2)
- 3) 前記2)の調査地域、および周辺市町には冬春トマトの栽培が多く、今後、本病の発生拡大が懸念される。
- 4) 現在、冬春トマトの育苗が行われており、この時期にTYLCVが感染すると、激しい症状を示し、被害が大きい。また、本病に感染した苗や保毒したシルバーリーフコナジラミの移動による発生地域の拡大も懸念される。

4. 防除対策

- 1) 育苗期からシルバーリーフコナジラミの防除を徹底する。
- 2) 近紫外線除去フィルムを使用し、施設開口部に防虫網を設置して、施設内へのシルバーリーフコナジラミの侵入を防止する。
- 3) ほ場周辺の雑草はシルバーリーフコナジラミの生息場所になり、また草種によってはTYLCVの伝染源になるため、除草を徹底する
- 4) 家庭菜園トマトを含め、発病株は伝染源となるため、見つけ次第抜き取り、放置せずに埋没処理を行う。
- 5) 施設栽培では栽培終了後に蒸し込み等を行い、シルバーリーフコナジラミを死滅させ、施設外への分散を防ぐ。
- 6) 本病は媒介虫のシルバーリーフコナジラミの飛来・移動により発生が広がることから、上記の対策は地域全体で実施することが重要である。
- 7) 疑わしい症状がみられた場合は、最寄りの農業改良普及センター、または病害虫防除所に連絡する。

表1. 県内の冬春トマトにおけるトマト黄化葉巻病の発生拡大状況

発生確認時期	発生地域	発生農家数
平成13年12月	宮崎市、佐土原町、都城市、三股町 高鍋町、新富町、都農町 2市5町	計7戸
平成14年10月	宮崎市 1市	計6戸

平成15年2月	宮崎市、三股町、高鍋町、川南町 1市3町	計10戸
平成15年6月	宮崎市、清武町、三股町 高鍋町、川南町 1市4町	計22戸

表2. 宮崎市・清武町の家庭菜園における
トマト黄化葉巻病の発病状況

調査家庭 菜園数	発病家庭 菜園数	発病家庭 菜園率(%)	発病株率 (%)
29	19	65.5	49.2
(平成15年7月24日調査)			